

奈良の観光活性化について

2018.10.19

奈良経済同友会

観光活性化委員会中間報告

奈良観光の問題点

1

- 大阪や京都を宿泊地とする日帰り客が多い
- 訪問先が奈良市周辺に集中
- 一人あたりの消費額が少ない

奈良観光の問題点の背景

- ➡ 観光客数に恵まれてきた → 「奈良は観光県だ」との思い
- ➡ 長い歴史、気候的に安定、経済立地に恵まれていた
 - 観光で地域起こしをしなければ、といった危機感少ない
- ➡ 長年にわたり宿泊客の多くが修学旅行生だったこともあり
夜の町が発展しなかった
- ➡ 奈良県民が豊富な文化財の存在の有難さをあまり感じていない → 奈良県民が奈良をあまり知らない

Look NARA deeper !

奈良観光の解決すべき課題

- 県内での宿泊者の増加
- 県北部に集中する観光客
の県南部への誘導

人は何故、旅に出る？

- 人類はアフリカで生まれ約7万年前にアフリカを出て世界中に移住していった
- 長い移動の中で人間には知らない土地に行きたい、知らないことを知りたいという本能→人を旅へ

人が旅に出る目的

- ➡ 非日常との出会い
- ➡ 見たことのない景色を見たい
- ➡ 食べたことのない美味しいものを食べたい
- ➡ 我々の中にも故郷へ帰りたいたい・自分のルーツを知りたい
との思いから古代のロマンを求めて旅に出る

何故、同じ場所を訪れるのか？ 同じ場所に泊るのか？

- 人間は、本来違ったところへ旅をしたくなるもの
- もう一度、または繰り返し同じ所へ行きたくなる理由

その土地に余程引かれるものがあるから
祭り等のイベント、花見等の自然景観等

同じ宿を選ぶ理由

- ➡ 宿のホスピタリティの高さ
- ➡ 泊ることによってリラックスできる(温泉等)
- ➡ 食事が美味しい
- ➡ 宿の風情が良い
- ➡ 宿からの景観が素晴らしい(夕日が素晴らしい等)
- ➡ 当日、または翌日の行動に便利である(行事のある場所に近い等)等々

奈良はどうか？

- 弥生時代から奈良時代の間における文化遺産
- 修験道や長谷詣で、南朝の遺跡、今井町をはじめ八木や郡山、五条にも古い街並み
- 花に関する見どころ、豊富な自然
- 山の辺の道、葛城古道
- 食、日本酒

しかし・・・

奈良には他府県がうらやむ沢山の観光資源
→しかし、十分に生かされていない

説明が必要な文化遺産（特に、埋蔵文化財）

宿泊する必然性が不足

→宿泊地としてのポジション向上が不可欠

奈良の観光を活性化させる幾つかの考察

- 奈良観光のストーリーを明確にする
- 奈良を学ぶ
- 奈良を歩く、走る
- 奈良を分かりやすく
- 奈良に美味しいものあり
- 奈良らしさの確保
- 目玉施設の建設

「大阪や京都に泊るより
奈良の方が良い！」

同友会のメンバーが取り組むこと

- 我々自身が奈良のことをもっと知り学び、我々自身が奈良の観光大使となる
- SNSの活用も含め情報発信を多くする
- 同友会メンバーが地域に密着した情報を集める

奈良經濟同友会行動指針

Look NARA deeper
&
be forward-thinking !

今後の取り組みについて

- 提言内容を充実するための委員会の設置
- 情報発信のための委員会の設置
- 奈良まほろばソムリエ検定を取得し奈良観光大使となる